

II. 高TG血症治療の現状と展望

5. 高TG血症に対する糖尿病治療薬の効果

千葉大学予防医学センター 准教授
櫻井 健一

[Summary]

糖尿病は脂質異常症，特に高TG血症をともしやすい。糖尿病患者において高TG血症は動脈硬化性疾患の危険因子であることが知られており，適切なレベルに維持することが望まれる。高TG血症は糖尿病の病態と深く関与しており，その病態を理解することは高TG血症の治療を行う上で必要と考えられる。一方，糖尿病治療薬には高TG血症に効果を示すものが多く認められる。本稿では，糖尿病にともなう脂質異常症の病態および糖尿病治療薬の高TG血症に対する効果を概説する。

はじめに

糖尿病の治療目標は「健康な人と変わらない日常生活の質(QOL)の維持，健康な人と変わらない寿命の確保」であり，そのためには各種合併症の予防を目的とした治療が必要となる。糖尿病合併症としては網膜症，腎症，神経障害といった糖尿病に特有の細小血管障害とともに冠動脈疾患，脳血管障害などの動脈硬化性疾患がある。動脈硬化性疾患は高血糖のみから発症するわけではなく，高血糖以外のさまざまな危険因子が複合的に関与することにより発症進行すると考えられている。危険因子のなかでも脂質異常症が糖尿病に合併することは多く，また，動脈硬化性疾患の強い危険因子としても知られている¹⁾。糖尿病患者において動脈硬化性疾患が死亡原因に占める割合は高く，その予防が糖尿病治療における一つの目標となっており，脂質異常症の管理は糖尿病患者の治療を考える上でも重要なポイントとなる。血清脂質としてはコレステロールがリスク因子としては最も重要であるが，日本人糖尿病患者における検討では血清中性脂肪(triglyceride; TG)もリスク因子となることが示されている²⁾。そのため，糖尿病治療薬の選択において，高TG血症に対する効果も一つの材料になると考えられる。本稿では，糖尿病治療薬の高TG血症に対する効果について述べていく。

Key Words :

糖尿病 □ 高TG血症 □ 脂質異常症 □ インスリン抵抗性